

伝西山貝塚（広島市東区）出土加飾土器片をめぐって

真木大空

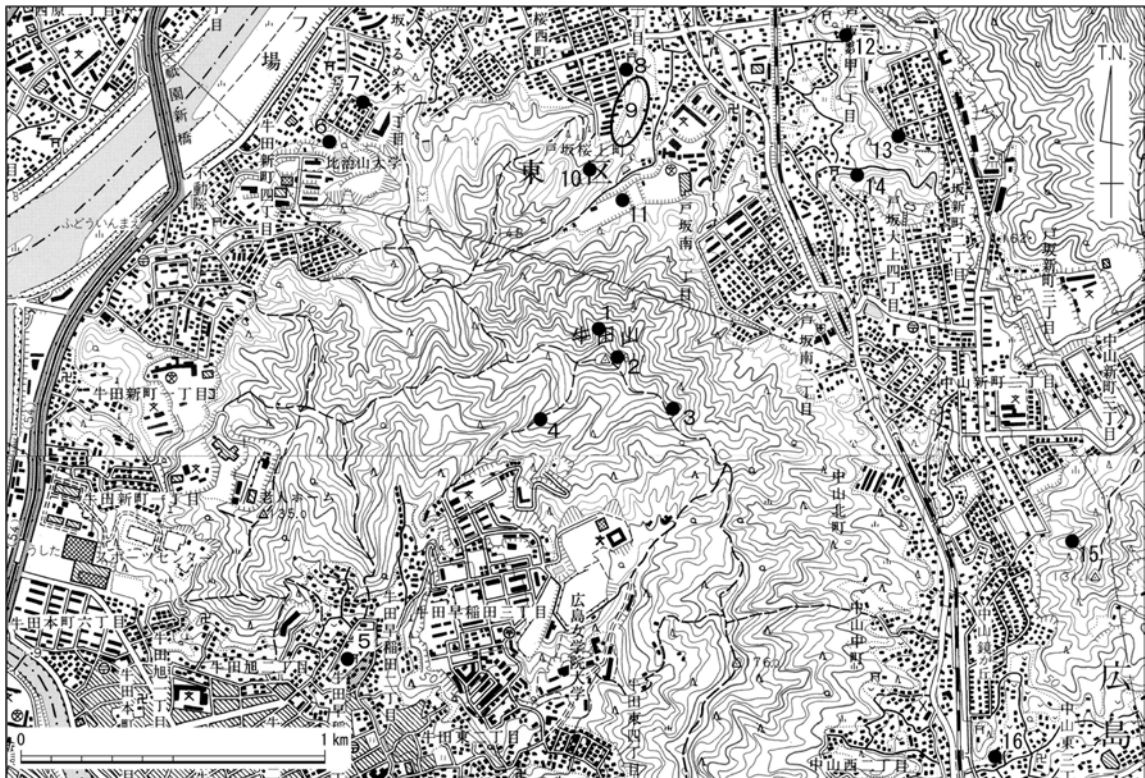
1. はじめに

広島大学考古学研究室はこれまで以前の所在地である広島市内をはじめ、県内各地の弥生時代遺跡の発掘調査に関わってきた。当時の出土遺物は県内の歴史を知ることができる貴重な資料として収蔵・保管されている。なかでも鉄斧、巴形銅器などの金属器や大量の貝類が出土した西山貝塚、弥生時代後期の土器編年に有効な神谷川遺跡などが知られているが、残念ながら正式な報告書は未だ作成されていない。

そうした中で、今回広島大学考古学研究室所蔵の広島市東区西山貝塚から出土したとされる加飾土器片を実見する機会を得た。当貝塚においてこのような土器片が出土したことは知られておらず、その性格が不明であったため類例との比較とともに資料紹介を行うことにしたい。なお、広島大学考古学研究室に所蔵されている過去の調査記録の中には今回紹介する土器片に関する記述を確認できなかったため、ここでは仮に伝西山貝塚出土とする。

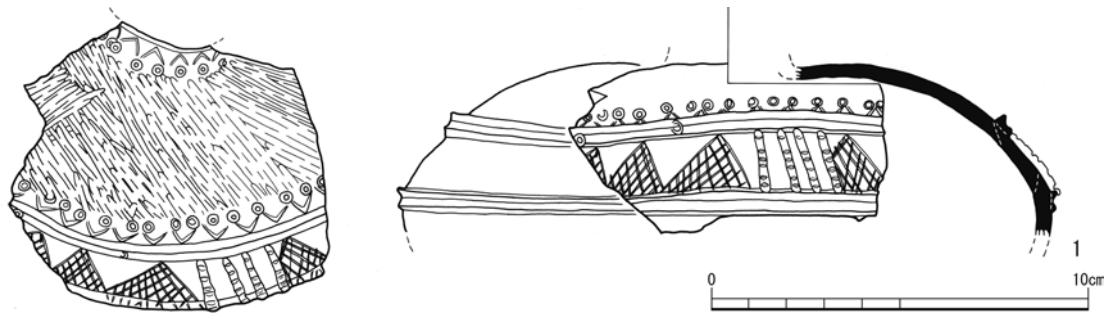
2. 西山貝塚の概要

広島県広島市東区に位置する標高261mの牛田山には4ヶ所の貝塚遺跡が確認されているが、



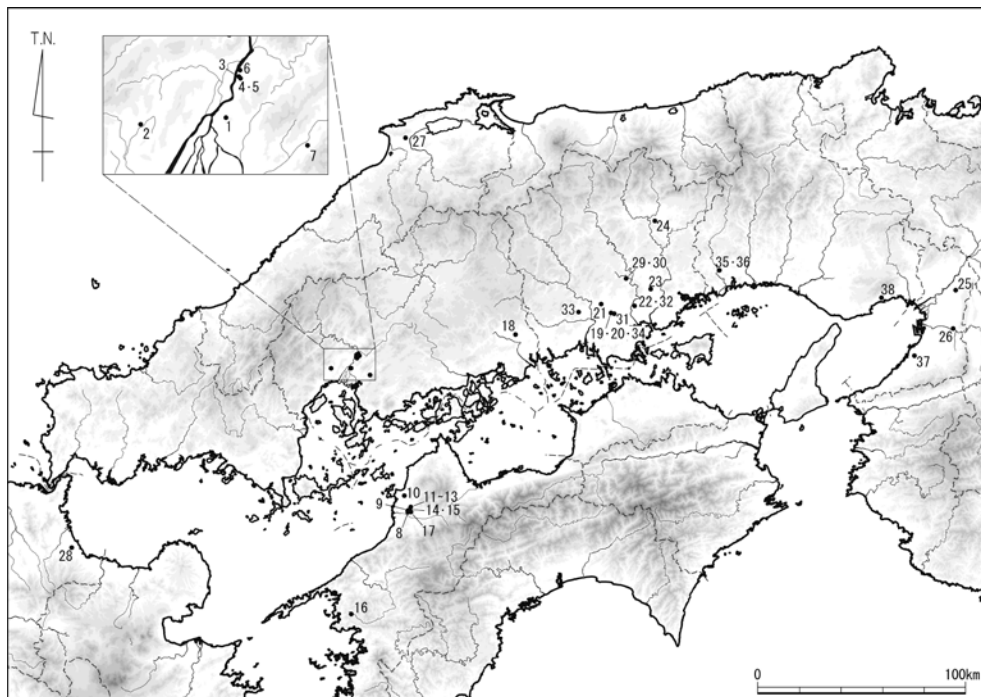
第1図 西山貝塚周辺遺跡分布図 (1/25,000)

1. 西山258メートル貝塚 2. 西山261メートル貝塚 3. 西山210メートル貝塚 4. 茶磨山南貝塚 5. 牛田の弥生文化時代墳墓
6. 牛田新町遺跡 7. 狐瓜木南遺跡 8. 桜ヶ丘古墳 9. 長尾古墳群 10. 長尾遺跡 11. 城北学園グラウンド遺跡
12. 八幡山古墳 13. 戸坂大上遺跡 14. 浄厳寺遺跡 15. 田原ヶ城山古墳 16. 中山貝塚



第2図 伝西山貝塚出土土器片 (1/2)

一般的に「西山貝塚」という名称は山頂付近の標高258mの地点に所在する「西山258メートル貝塚」に用いられる（第1図）。周辺住民の手による発掘によって巴形銅器や多くの鉄器が出土したという報告をうけ、昭和40（1965）年に潮見浩氏を中心とした広島大学の発掘調査団によって緊急発掘調査が行われた⁽¹⁾（川越 1965）。広島大学考古学研究室に所蔵されている当時の調査日誌を参考にすると、2本のトレンチ調査によって上下二つに分かれる貝層（第Ⅰ貝層と第Ⅱ貝層）が検出され、間には黄褐色土層が最大で20cmほど堆積していた。各層から弥生時代後期に属する多くの土器が出土したが、下層が貝層の堆積、遺物量ともに多く、土器もやや古い様相を呈するようである。とくに、下層の地山と接する部分で焼土や完形の土器、鉄器、土製品などが集中して出土した。貝類は海水性のカキ、ハマグリが多く、ほかにアサリ、シジミ、シオフキ、ホタテガイ、シメタガイ、ツメタガイ、テングニシがみられ、陸生のマイマイやキセルガイも出土したようである。当時の広島湾岸の地形は現在と大きく異なっており、牛田山は広島湾に面する島のようになっていたと考えられる。



第3図 加飾細頸壺分布図 (1/3, 500, 000)

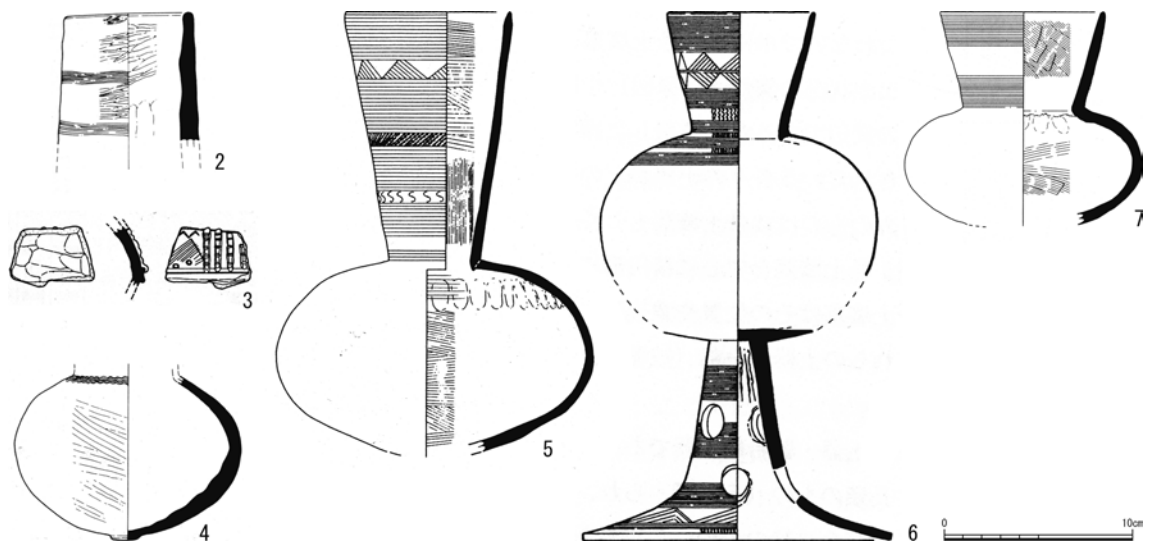
※遺跡番号は第1表・各実測図に対応

3. 資料の紹介（第2図、図版第1）

今回紹介する資料は壺形土器（以下、「形土器」省略）の胴部上半である。貝殻に含まれるカルシウム分によって酸性化が妨げられたことにより遺存状態が非常に良好である。頸基部が若干遺存しており、細頸壺に復元できる。以下では、仮に「加飾細頸壺」⁽²⁾と呼称する。文様は胴部中位に2条の断面M字状の貼付突帯が施され、その突帯間に4条一組の縦位刻目棒状浮文と鋸歯文が施される。上方突帯凸面には竹管文が確認でき、おそらく棒状浮文がないところに等間隔に施されたものと思われる。頸部周縁と上方突帯直上には三角形列点文と竹管文を組み合わせた文様がみられる。三角形列点文はヘラ状工具で描いたものではなく、下面が窪んだ先端三角形状の工具を押し付けることで施文している。外面調整は文様部分をすべて横位ナデ、それ以外を斜位のミガキで仕上げる。文様と調整の切り合い関係から、全体をナデで調整後施文を行い、最後にミガキを施したと考えられる。内面調整は不明であるが、指頭圧痕や指紋が明瞭に観察できる。色調は外面には橙褐色と茶褐色の部分があり、内面は黒色化している。精選された胎土を使用しており、焼成も良好で硬質である。器壁は約3mmと非常に薄い。西山貝塚出土の他器種とは明らかに胎土・色調が異なっていることから、搬入品の可能性も考えられる⁽³⁾。

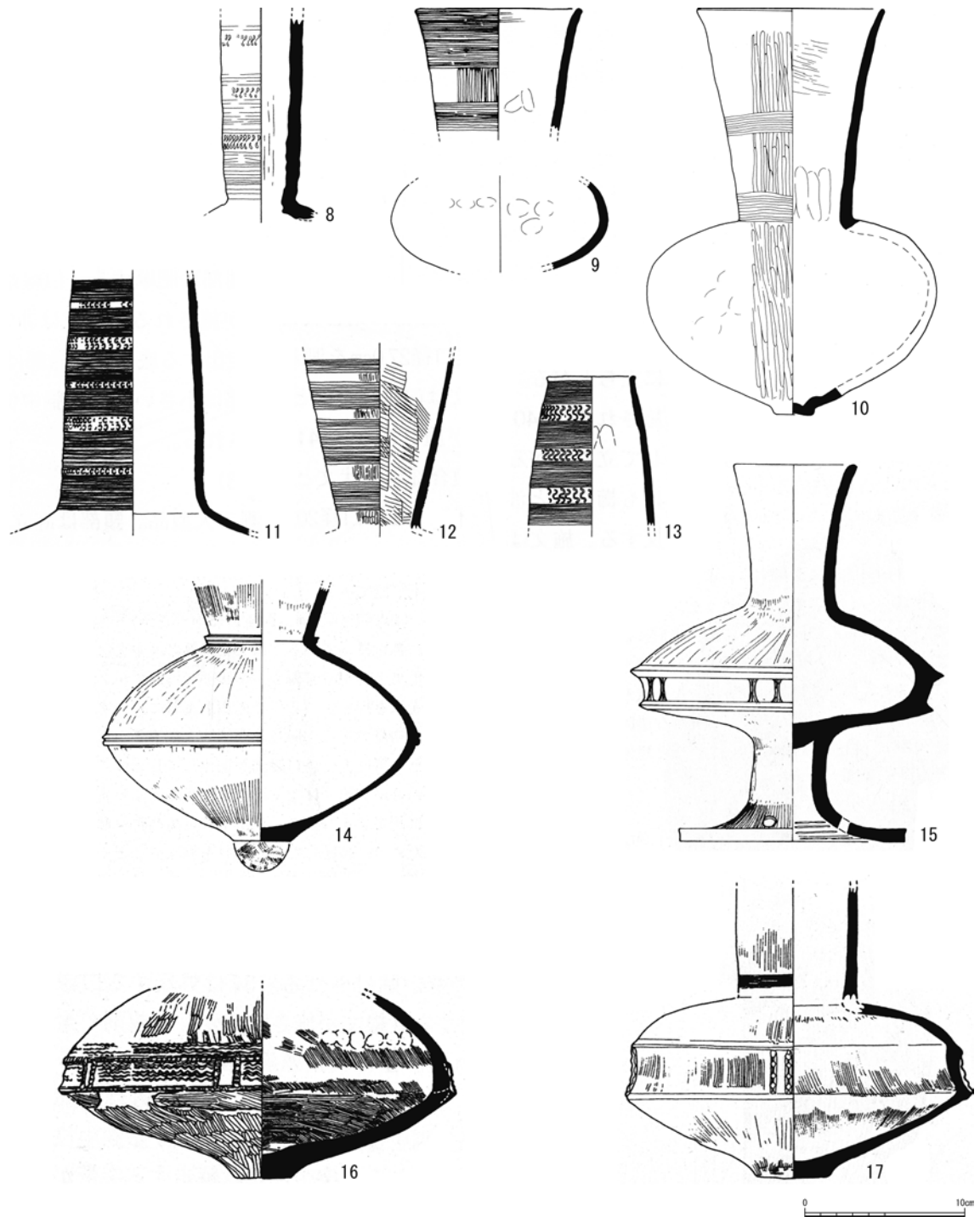
4. 安芸地域の加飾細頸壺

現在、安芸地域（広島県西部）において伝西山貝塚出土例の確実な類例として捉えられるのは、西山貝塚の北方約5kmに所在する大明地遺跡（植田・妹尾 1987）出土例1点のみである（第4図3）。胴部中位の小片であるが、伝西山貝塚出土例とほぼ同じ文様構成である。色調は外面が明橙色で内面は黒色化している。精選された胎土を使用しているものの伝西山貝塚出土例と比較して焼成が不良であり、おそらく胎土は異なるものであろう。また、これも明確な遺構にともなったものではなく、その性格を推定することが難しい。そこで、安芸地域における細頸壺について概観し、その位置づけを検討したい。



第4図 安芸地域の細頸壺 (1/4)

安芸地域では、後期中葉以降に細頸壺が登場する。広島湾岸周辺に分布が集中し、大型集落や墓域での出土が目立つ。底部は丸底を志向し器壁は非常に薄い。頸部全体が櫛描直線文や鋸歯文、竹管文などで加飾される（第4図）。こうした施文の特徴は伊予地域、とくに松山平野出土の細頸壺と類似性が高い（第5図8～13）。後期前半に拠点集落の消滅や規模の縮小などが起こった松山平野であるが、後期後半になるとふたたび遺跡数・遺構数・遺物量が増加し、海浜部にも遺跡が集中するなど活性化した集落展開が認められる（柴田 2009）。



第5図 伊予地域の細頸壺（1/4）

この頃互いに瀬戸内海に面するという地理的環境を背景に広島湾岸周辺地域と松山平野の交流が活発化した可能性が高い。安芸地域の細頸壺は伊予地域の影響のもとで出現したと考えて間違いないだろう。

なお、伊予地域においても伝西山貝塚出土例のように胴部中位に加飾を施すものが出土しているが（第5図14～17）、後述のようにこれらは吉備地域を中心として西日本各地に分布している。頸部を櫛描直線文や鋸歯文、竹管文によって加飾する点が伊予地域独自の特徴として挙げられるだろう。伝西山貝塚や大明地遺跡出土例は頸部を欠損しているものの、胴部中位を繁縷な文様によって加飾しており、安芸地域の伊予系加飾細頸壺とは意匠の系譜が異なるものと考えられる。この2点は安芸地域の中でも例外的なものと考えられよう。

5. 類例との比較

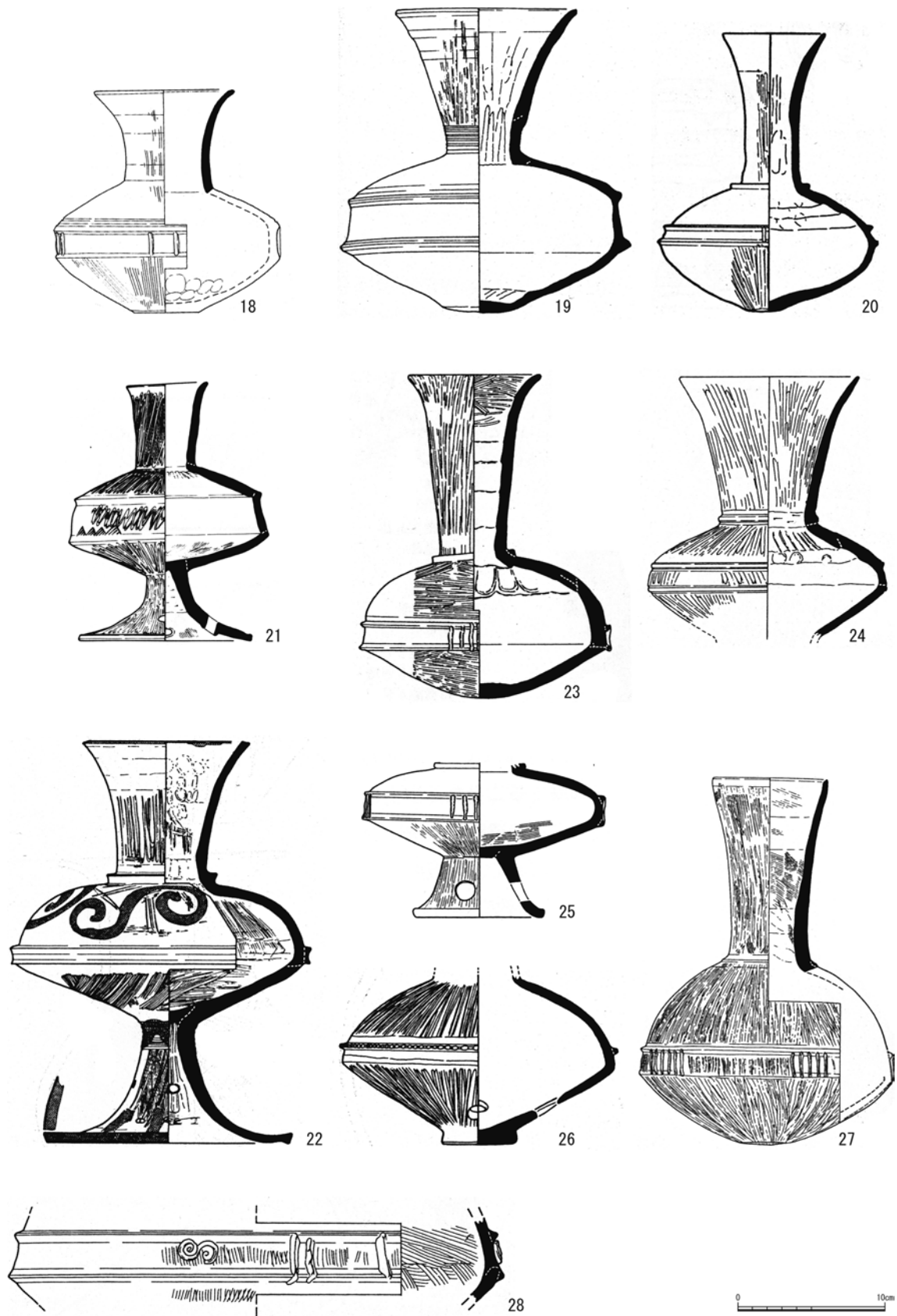
(1) 対象資料

類例は弥生時代後期中葉以降のものが多く、分布地域は岡山県、愛媛県、香川県、兵庫県、大阪府を中心とし、一部島根県や福岡県も含んでいる⁽⁴⁾（第3図）。

(2) 資料の紹介

後期中葉（第6図） 図示したほぼすべての地域で出土が確認できる。形態としては大きく2種類ある（後藤・井上 1991）。一つは算盤玉形に近い偏球形の胴部をもち、中位に1条もしくは2条の突帯を施すもので、これを1類とする（第6図20・22・26～28）。後の精製小型土器（河合 2015）である脚付直口壺の祖形と考えられているものでもある（宇垣 2000・2016）。もう一つは胴部中位に面をもち、その上下両端付近にそれぞれ1本ずつ突帯を巡らせるもので、これを2類とする（第6図18・19・21・23～25）。突帯間に文様を施す個体が多い。この二つの類型は出土地域に関わらずみられるものであり、その出現背景を検討する必要がある。なお、胴部形態に関わらず脚をもつものが出現する。調整は外面をミガキもしくはハケ、内面をハケもしくはナデで仕上げる。後述するように大型で加飾性の高いものも出土しており、後の特殊壺の祖形となる可能性が指摘されている（宇垣 2000、近藤 2002）。河内地域では長友朋子氏によって集成された吉備地域からの搬入土器に多くの加飾細頸壺が含まれる（長友 2004）一方で、四条畷市讃良郡条里遺跡（後川・實盛・井上編 2015）では、生駒西麓産の吉備系土器として報告されているなど、畿内地域では搬入品が一定量出土していると同時に一部在地製のものもみられるようである。

後期後葉以降（第7図） 出土地域はほぼ変化しないが、備前・備中地域での出土がもっとも多くなる。当該地域では精製小型土器としての脚付直口壺が出現するが、そのほとんどは無文であり加飾されたものは客体的である。加飾細頸壺の特徴としては、吉備地域以東で文様に浮文もしくはスタンプによる渦巻文が比較的多くみられるようになる。調整は外面をミガキもしくはハケ、内面をハケもしくはナデで仕上げる。筆者の実見によると、倉敷市上東遺跡出土例（第7図34）は器壁が非常に薄く、施文・調整も丁寧であり、焼成の非常に良い硬質な仕上がりであった。こうした諸特徴は西山貝塚出土例と類似性が高く、製作地に近い



第6図 後期中葉の加飾細頸壺（1/4）

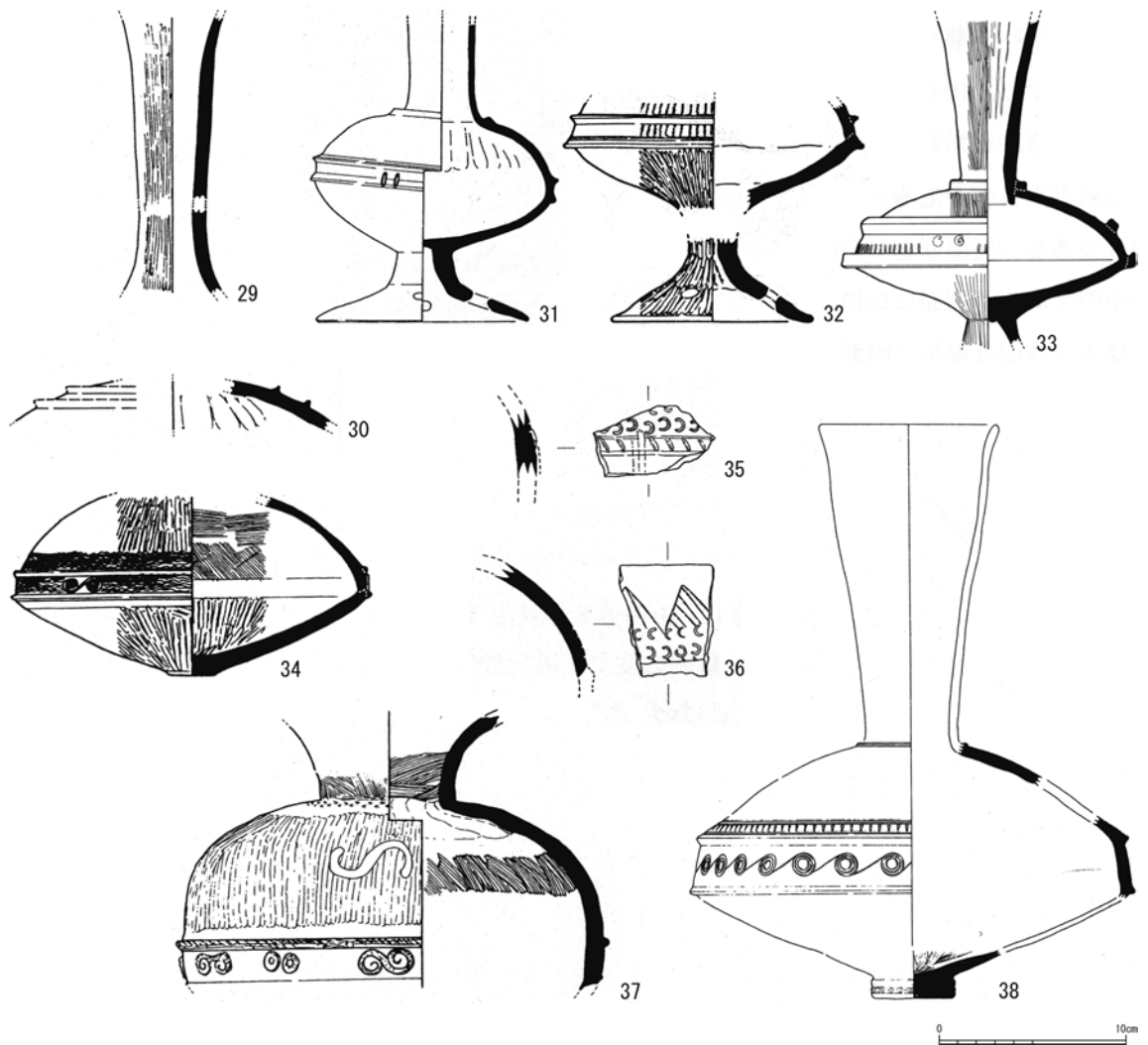
可能性も考えられる。一方、上東遺跡例と形態・文様が類似した西予市坪栗遺跡例（第5図16）は施文や調整が粗雑であり、器壁にもやや厚みがあった。こうしたことから、加飾細頸壺の中心地域はやはり吉備地域であったと考えられる。

(3) 出土遺跡・遺構の性格

加飾細頸壺は出土遺構に偏りはなく、土坑、土器溜まり、井戸、溝、住居など様々な遺構から出土し、その性格は不明とされるものが多い。ただ、何らかの祭祀的性格が想定される例もあり、以下では出土状況が明らかなものをいくつか紹介する。

百間川原尾島遺跡（第6図22） 岡山県岡山市に所在する。井戸と思われる土坑の最下層から多量の炭・焼土・礫とともに後期中葉古段階に属する長頸壺・短頸壺・細頸壺・鉢・高杯・蓋・製塩土器がほぼ完形で出土した。細頸壺にはS字状の彩文が施され、井戸掘削時に行われた祭祀にともなうものと考えられている（近藤 2013）。

坪栗遺跡（第5図16） 愛媛県西予市に所在する。自然流路から細頸壺とともに非在地系土器や木器、堅果類、異体字銘帯鏡などが出土し、何らかの祭祀行為が想定されている。



第7図 後期後葉以降の加飾細頸壺 (1/4)

下池田遺跡（第7図37）大阪府岸和田市に所在する。円形溝底から後期に属する土器とともに出土している。埋葬施設は確認できていないものの、細頸壺は様々な文様で加飾され、小孔が穿たれていることから非日常的な土器として捉えられている。

以上のように、加飾細頸壺が出土した遺構は祭祀に関わるものと捉えられる傾向にあり、後期前半までは集落内祭祀に使用されるが、後期後半になると葬送儀礼で使用されるものが現れるという使用方法の変化がみられる。また、その使用方法には共通性があり、同一遺構から複数個体が出土することはほとんどなく、大量供献・廃棄を目的としたものではなかったと指摘できる。後藤信義・井上智博両氏は東大阪市・八尾市の池島・福万寺遺跡の報告の中で加飾細頸壺について検討し、2類には突帯や文様などが特殊壺に共通するものがあり、一連の葬送儀礼の中で両者が使用され、加飾細頸壺が特殊壺・特殊器台を中心とする供献土器の中に組み込まれていったと指摘している。この指摘は今回の検討でも追認することができる。

（4）小 結

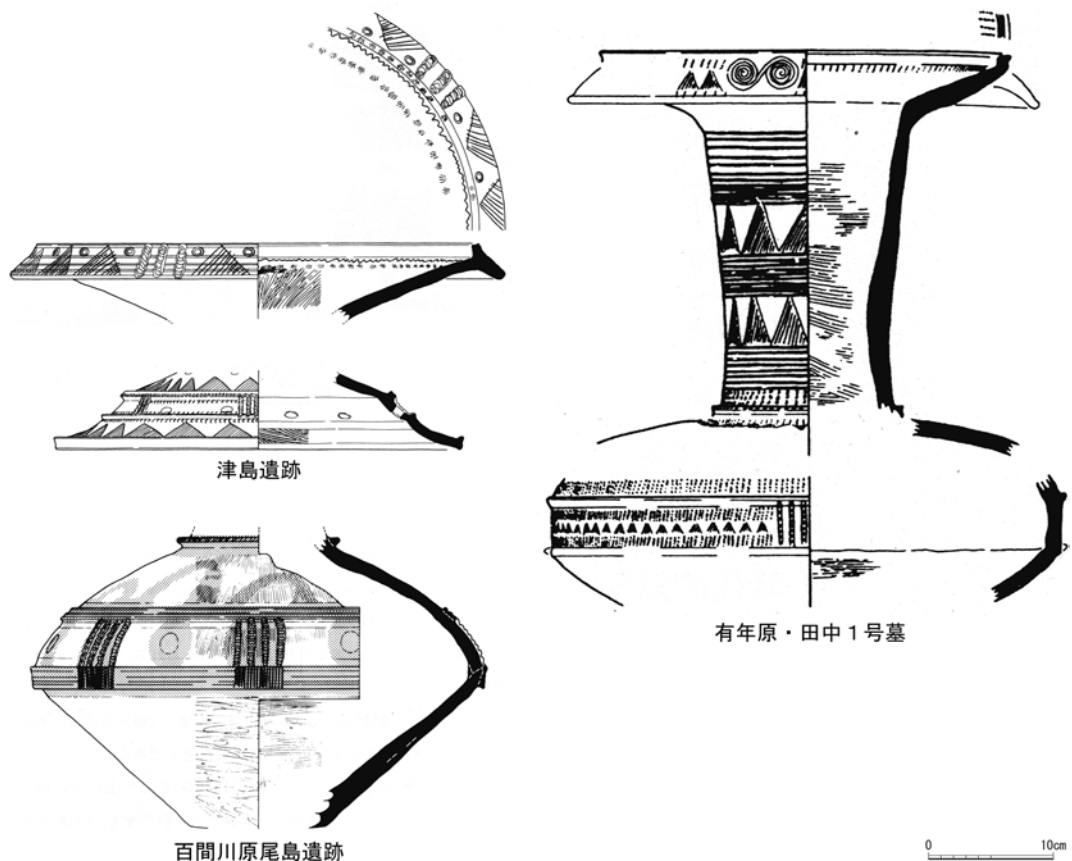
西山貝塚における加飾細頸壺は当該期の安芸地域では類例がほとんどみられないものであるが、類例が確認できる伊予地域や吉備地域以東のなかでもとくに繁縷な加飾が施されたものである。時期については、後述するように文様構成が吉備地域以東で出土する装飾高杯や装飾壺に類似すること、非常に薄い器壁、精選された胎土の使用、高い焼成温度による硬質な仕上がり、弥生時代終末期の精製小型土器における無文化傾向などから、弥生時代後期後葉のなかでも古い段階に属すると考える。遺物の性格としては、精選された胎土や丁寧な仕上げをみる限り壺や甕などの日常生活で使用する土器とは考えられず、他地域の類例から何らかの祭祀にともなうものと考えられるが、その具体的な内容については不明瞭である。

6. 文様について

伝西山貝塚出土例の文様は、断面M字状の貼付突帯、縦位刻目棒状浮文、鋸歯文、竹管文、三角形列点文で構成されている。こうした組み合わせは、細頸壺に限らなければ吉備地域以東で比較的多くみられるものである（第8図）。兵庫県赤穂市有年原・田中遺跡（白石2014）では縦位刻目棒状浮文、内部を斜格子文で充填した鋸歯文が施された大型装飾壺のほか、加飾細頸壺の可能性のある小破片も出土し（第7図35・36）、岡山市百聞川原尾島遺跡でも胴部中位を貼付突帯や棒状浮文で加飾した大型壺が出土している。また、岡山県岡山市津島遺跡（島崎・岡本・時實編2003）では縦位刻目棒状浮文、内部を斜格子文で充填した鋸歯文、竹管文が施された装飾高杯が出土している。吉備地域や伊予地域との関係性がうかがわれた伝西山貝塚出土例であるが、吉備地域の加飾細頸壺は頸部に華やかな装飾を施すものはみられず、伊予地域との明確な地域差を示している。一方で、胴部を貼付突帯や棒状浮文によって加飾するものは伊予地域でも出土しており、やはり中心には吉備地域があり、そこから他地域への影響があったと考えられる。

吉備地域は西日本の中でもとくに土器への加飾傾向が強く残る地域であるという指摘があり、「土器祭祀に求める呪術的なイデオロギーの強さ」（平井 2013、253頁）がうかがえるが、その文様およびそれを用いた祭祀の内容には大きく2種類が存在すると思われる。一つはS字状もしくはノ字状の赤色顔料による彩文が施されるものである。これらの文様は龍や流水を表すとされ、水に関わる祭祀が行われた可能性が指摘されている（辰巳 2008、南編 2016ほか）。また、当該時期・地域には龍をモチーフとした線刻土器も数多く出土しており、こちらも集落遺跡からの出土が多い（平井 2016）。もう一つは鋸歯文が施されるものである。墳墓から出土する土器に施されることが多い鋸歯文であるが、集落遺跡では被施文器種がある程度限定され、土器構成に占める比率の低さから農耕儀礼の表示として捉えられている（宇垣 2000）。注目すべきは先述した胴部形態における2つの類型と施される文様がほぼ対応する点である。そもそも加飾細頸壺に鋸歯文が施されることはほとんどないが、施される個体は特殊壺の祖形と考えられる2類である（第6図21）。こうした様相は少なくとも加飾細頸壺という器種に限れば器形と文様、使用方法にある程度の意識的な共通性をもたせていた可能性が考えられる。

ただ、これをふまえて伝西山貝塚出土例についてみるとやや矛盾がある。当例はその形態や製作技法から1類と考えられるが、施されている文様はS字状の文様ではなく鋸歯文である。文様構成からすると吉備地域以東に系譜を求めたいものであるが、器形と文様の組



第8図 伝西山貝塚出土例と類似した文様をもつ土器 (1/6)

み合わせは他に例をみないものである。また、三角形列点文は吉備地域以東にもほとんど確認できない文様であり、純粹な吉備系土器とは考えにくい。この現象について、重松辰治氏の見解がヒントとなる。重松氏は山陰地方で出土する吉備系土器を検討する中で、胎土や色調からそのほとんどが吉備南部地域からの搬入品であるとしつつも、吉備地域に比べて同器種でもやや小型であること、小型特殊器台においては色調・胎土に違いがみられること、特殊器台・特殊壺に吉備地域ではみられない竹管文が施されていることから、すべてではないにしろ一部の土器に胎土やサイズ、文様における意図的な転換が図られた可能性を指摘した（重松 2006）。吉備地域からの搬入品が顕著ではない安芸地域においても同様に考えられるかはさらに検討を要するが、吉備地域から他地域に搬入される土器に対して変容が加えられた例の一つとなる可能性を指摘したい。いずれにせよ、祭祀性の強い土器の流入背景には複雑な地域間関係を想定しなければならない。

7. おわりに

西山貝塚はこれまで遺跡の立地やその豊富な遺物量から広島湾岸の中心的な集落として位置づけられることが多かった。広島湾岸周辺の集落遺跡は太田川によって形成された沖積地を取り巻く丘陵尾根上に立地し、弥生時代後期後半にその数・規模ともに最盛期を迎える。その生産基盤は丘陵間に開けた谷水田だけでなく、多くの集落に貝塚がともなうことが大きな特徴でもある。伊藤実氏は立地高度がそれほど高くない疑似高地性ともいえる集落が多い広島湾岸において、明確な意図をもって山頂に立地する西山貝塚が中核的役割を担っていた可能性を指摘している（伊藤 2009）。貝の成長線分析から広島湾岸の集落について検討した池田研氏は、各集落間で貝構成や殻高に格差がみられることから、「地域内の紐帯の確認儀礼など、貝を採集するという行為そのものに特殊な意味が含まれていた」（池田 1999、156頁）と述べている。

伝西山貝塚出土の加飾細頸壺は当時西山貝塚を形成した人々の広い交流圏と遺跡としての優位性を改めて認識させるものとなった。大規模な貝塚の形成からは海での広い生産活動がみとれる一方で、以前の発掘調査で出土した巴形銅器をはじめとした金属器や今回検討した細頸壺からは九州地方から東部瀬戸内地域までの広範囲における対外的交流の一端をみることができる。安芸地域では後期後葉から古墳時代初頭にかけて円礫を使用する特徴的な竪穴式石槨をもつ墓が築造され、豊富な鉄器や他地域系土器の出土がみられる（妹尾 1990ほか）。この基盤は集落遺跡の数・規模が急増する弥生時代後期後半以降、西山貝塚を中心とした地域間交流の中で次第に形成されたと考えられるのである。

謝 辞

本論は2018年7月22日（日）に広島大学大学院文学研究科で行われた中国四国歴史学地理学協会において発表した内容をもとに修正・加筆を行ったものである。本論を作成するにあたり、古代吉備文化財センターの河合忍氏、島根県埋蔵文化財調査センターの東森晋氏、

第1表 加飾細頸壺一覽

番号	遺跡名	所在地	遺跡種別	出土遺構	遺構性格	時期	法量 (cm) []は復元値				赤色顔料	出典	
							器高	口径	頸部径	胴部径			底径
1	西山貝塚	広島県広島市	集落・貝塚	不明	不明	後期後葉 (古)	—	—	[3.5]	[17.7]	—	—	広島大学 考古学研究室蔵
2	水晶城遺跡B地点	広島県広島市	集落	SK1	貯蔵穴	後期中葉	—	6.3	—	—	—	—	植田ほか1986
3	大明地遺跡	広島県広島市	集落・墓	調査区内	不明	後期後葉 (古)	—	—	—	—	—	—	植田・妹尾1987
4	大久保遺跡	広島県広島市	集落・墓	不明	不明	後期後葉	—	—	5.7	12.0	0.5	—	妹尾1987
5	大久保遺跡	広島県広島市	集落・墓	D24覆土中	埋葬	弥生終末	[23.4]	8.7	4.8	16.8	—	—	松岡編1992
6	西順寺北遺跡	広島県広島市	墓	墳頂部土坑	祭祀か	後期後葉	[28.0]	7.6	5.2	14.6	16.0	—	妹尾1990
7	三谷遺跡	広島県広島市	集落	調査区内	不明	後期後葉	—	8.4	6.5	12.6	—	—	楳木編2006
8	西石井遺跡	愛媛県松山市	集落・墓	SE102	井戸	後期後半	—	—	4.4	—	—	—	宮内編2006
9	西石井荒神堂遺跡	愛媛県松山市	集落・墓	TP1	埋葬	弥生終末	—	10.0	—	13.6	—	—	梅木編1998
10	座押坂遺跡	愛媛県松山市	集落	SB3	住居	後期後葉	25.2	11.6	7.2	18.0	7.2	—	松村・梅木編1993
11	東本遺跡	愛媛県松山市	集落	SB101	住居	後期後葉	—	—	9.6	—	—	—	相原編2011
12	東本遺跡	愛媛県松山市	集落	SB101	住居	後期後葉	—	—	5.2	—	—	—	相原編2011
13	東本遺跡	愛媛県松山市	集落	SB101	住居	後期後葉	—	5.2	—	—	—	—	相原編2011
14	天山北遺跡	愛媛県松山市	不明	土坑	祭祀か	後期中葉 (古)	—	—	6.6	19.8	3.6	—	長井ほか1973
15	天山北遺跡	愛媛県松山市	不明	土坑	祭祀か	後期中葉 (古)	23.4	7.2	5.3	19.5	14.1	—	長井ほか1973
16	坪栗遺跡	愛媛県西予市	集落	SD04	自然流路 祭祀跡か	後期後葉～ 終末期	—	—	—	24.8	3.6	—	高木編2009
17	今在家遺跡	愛媛県松山市	集落	SK2	不明	後期後葉	—	—	7.6	21.6	4.4	—	相原編1996
18	加茂倉田遺跡	広島県福山市	集落?・墓	土壇墓群北側斜面	祭祀か	後期中葉	15.3	9.4	5.6	15.4	4.3	—	畑2000
19	上東遺跡	岡山県倉敷市	集落	土器溜まり	不明	後期中葉 (古)	20.4	12.0	5.0	19.6	—	○	下澤編2001
20	上東遺跡	岡山県倉敷市	集落	斜面	不明	後期中葉 (新)	18.8	6.8	4.0	14.8	—	—	柳瀬編1977
21	窪木薬師遺跡	岡山県総社市	集落	土壇2	不明	後期中葉 (古)	17.2	5.2	4.0	13.6	11.6	—	島崎編1993
22	百間川原尾島遺跡	岡山県岡山市	集落	井戸16	祭祀	後期中葉 (古)	27.2	10.4	6.0	20.4	16.0	○・彩文	正岡編1984
23	畚富遺跡	岡山県赤磐市	集落	土坑12	不明	後期中葉	22.0	8.8	4.4	17.0	—	—	下澤編1996
24	大畑遺跡	岡山県津山市	集落	溝1	不明	後期中葉 (古)	—	12.0	6.4	16.0	—	—	行田・小郷・平岡 1993
25	讃良郡糸里遺跡	大阪府四条畷市	集落	包含層	不明	後期中葉 (古)	10.4	5.4	16.4	4.8	8.4	○	後川・實盛・井上編 2015
26	川北遺跡	大阪府藤井寺市	集落	溝4	不明	後期中葉	—	—	—	18.4	5.0	○	岩崎編1981
27	山持遺跡	島根県出雲市	集落・墓	II区自然河道	自然流路 祭祀跡か	後期中葉	24.8	7.6	5.6	17.2	3.2	—	池淵編2007
28	赤幡森ケ坪遺跡	福岡県筑上郡	集落	谷状遺構	廃棄場か	後期中葉	—	—	—	33.6	—	—	小田編1992
29	みそのお遺跡	岡山県岡山市	墓	24号墓	埋葬	後期後葉 (古)	—	—	—	—	—	—	椿編1993
30	みそのお遺跡	岡山県岡山市	墓	24号墓	埋葬	後期後葉 (古)	—	—	—	—	—	—	椿編1993
31	川入・中撫川遺跡	岡山県岡山市	集落	溝13	祭祀か	後期後葉	—	—	4.0	13.2	11.2	—	草原編2006
32	百間川原尾島遺跡	岡山県岡山市	集落	堅穴式住居34	住居	弥生終末	—	—	—	16.0	—	—	正岡編1984
33	立坂弥生墳丘墓	岡山県総社市	墓	7D区	埋葬	後期後葉～ 終末期	—	—	2.8	15.6	—	○	近藤編1996
34	上東遺跡	岡山県倉敷市	集落	波止場状遺構	祭祀?	後期後葉	—	—	—	19.6	2.8	—	下澤編2001
35	有年原・田中遺跡	兵庫県赤穂市	集落・墓	1号墓周溝内	埋葬	後期後葉	—	—	—	—	—	—	白石2014
36	有年原・田中遺跡	兵庫県赤穂市	集落・墓	1号墓周溝内	埋葬	後期後葉	—	—	—	—	—	—	白石2014
37	下池田遺跡	大阪府岸和田市	集落・墓か	円形周溝	埋葬か	後期後葉	—	—	7.2	23.0	—	○	中村編1987
38	住吉宮町遺跡	兵庫県神戸市	集落	SB11	住居	弥生終末	[30.6]	—	[5.1]	[23.7]	4.2	—	丸山編1990

今福拓哉氏、西予市教育委員会の兒玉洋志氏、広島県埋蔵文化財調査室の順田千織氏には大変お世話になりました。記して感謝いたします。

註

- (1) これ以前に、少なくとも1900年代には牛田山山頂付近から貝殻が出土することが知られていた。そして、1930年代には地元の小学校教員や住民の手によって盗掘が行われたようであるが、当時の記録は残っていない。西山貝塚に関するもっとも古い報告は、昭和11 (1936) 年の神尾明正氏による試掘調査報告である (神尾 1936)。その後も、広島大学による調査以前の牛田山所在の貝塚遺跡に関する報告が散見される (神尾 1937、神尾 1938a・b、池田 1948、松崎・潮見 1961a・b)。
- (2) 口頸部形態がわからないため、ここでは細頸壺と呼称する。後述するような各地域で見られる類例は「長頸壺」や「直口壺」などと報告されているものも多いが、以下では統一してすべて細頸壺と呼称する。
- (3) 岡山県古代吉備文化財センターの河合忍氏に実見していただき、備前・備中地域で製作された可能性があるというご教示をいただいた。
- (4) 紙幅の都合上、以下では基本的に全形が復元できるもののみを図示し、重要な事例のみ破片資料も図示する。体裁統一のため、断面をぬりつぶすなど改変を加えたものがある。なお、伝西山貝塚出土例の全形がわからないため、口頸部の形態や脚の有無は類例の条件に含めていない。

挿図・付表出典

第1図 筆者作成。

第2図 1. 筆者実測、広島大学考古学研究室蔵。

第3図 筆者作成（元の地図は広島大学大学院文学研究科考古学研究室修了生加藤徹氏（現宮崎県教育委員会）が作成）。

第4図 2. 植田ほか1986、3. 植田・妹尾 1987、4. 妹尾 1987、5. 松岡編 1992、6. 妹尾 1990、7. 楳木編 2006。

第5図 8. 宮内編 2006、9. 梅木編 1998、10. 松村・梅木編 1993、11～13. 相原編 2011、14・15. 長井ほか 1973、16. 高木編 2009、17. 相原 1996。

第6図 18. 畑 2000、19. 下澤編 2001、20. 柳瀬編 1977、21. 島崎編 1993、22. 正岡編 1984、23. 下澤編 1996、24. 行田・小郷・平岡 1993、25. 後川・實盛・井上編 2015、26. 岩崎編 1981、27. 池淵編 2007、28. 小田編 1992。

第7図 29・30. 椿編 1993、31. 草原編 2006、32. 正岡編 1984、33. 近藤 1996、34. 下澤編 2001、35・36. 白石 2014、37. 中村編 1987、38. 丸山編 1990。

第8図 津島遺跡、島崎・岡本・時實編 2003、百間川原尾島遺跡、宇垣編 1994、有年原・田中 1 号墓、白石 2014。

第1表 筆者作成。

図版出典

図版第1 筆者撮影。

引用参考文献

相原浩二 1996 「今在家遺跡」『小野川流域の遺跡』松山市文化財調査報告書57、松山市教育委員会・松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター、229～250頁。

相原浩二編 2011 『東本遺跡・小坂遺跡・中村松田遺跡』松山市文化財調査報告書153、松山市文化・スポーツ振興財団埋蔵文化財センター。

後川恵太・實盛良彦・井上智博編 2015 『讚良郡条里遺跡』四条畷市文化財調査報告第50集、寝屋川市文化財資料28、大阪府文化財センター調査報告書第252集、四条畷市教育委員会・寝屋川市教育委員会・大阪府文化財センター。

池田 研 1999 「高地性集落の機能と生業－出土具を中心として－」『国家形成期の考古学－大阪大学考古学研究室10周年記念論集－』大阪大学考古学研究室、149～166頁。

池田次郎 1948 「広島縣西山二五八米貝塚の遺物」『日本考古學』第1巻第3号、日本考古学研究所、3～8頁。

池淵俊一編 2007 『山持遺跡Ⅱ・Ⅲ区』島根県教育委員会。

伊藤 実 2002 「瀬戸内の高地性集落解明の一視点－芸予諸島の高地性集落を中心として－」『古代文化』第54巻第4号、古代学協会、43～53頁。

伊藤 実 2009 「瀬戸内の弥生集落－広島湾岸・西条盆地・足守川下流域を中心として－」『広島県立歴史民俗資料館研究紀要』第7集、広島県立歴史民俗資料館、29～42頁。

岩崎二郎編 1981 『川北遺跡発掘調査概要』大阪府教育委員会。

植田千佳穂・松村昌彦・辻 満久・妹尾周三・道上康仁 1986 「水晶城遺跡」『山陽自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』(Ⅲ)、広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第47集、広島県埋蔵文化財センター、9～51頁。

- 植田千佳穂・妹尾周三 1987 「大明地遺跡」『山陽自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』(IV)、広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第55集、広島県埋蔵文化財調査センター、57～297頁。
- 宇垣匡雅 2000 「鋸齒文をもつ土器—吉備の農耕儀礼と葬送儀礼—」『考古学研究』第47巻第2号、考古学研究会、105～124頁。
- 宇垣匡雅 2016 「特殊器台祭祀の性格とその波及」『古代吉備』第27集、古代吉備研究会、36～57頁。
- 宇垣匡雅編 1994 『百間川原尾島遺跡』3、岡山県埋蔵文化財発掘調査報告88、岡山県教育委員会。
- 梅木謙一編 1998 『石井・浮穴の遺跡』松山市文化財調査報告書65、松山市教育委員会・松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター。
- 小田和利編 1992 『椎田バイパス関係埋蔵文化財調査報告』8、中巻、福岡県教育委員会。
- 神尾明正 1936 「広島市外西山貝塚—海拔約二五八米の貝塚—」『史前學雜誌』第8巻5号、史前学会、27～30頁。
- 神尾明正 1937 「広島市牛田町西山210m貝塚」『人類學雜誌』第52巻12号、東京人類学会、31～33頁。
- 神尾明正 1938a 「広島市外戸坂村西山二五八米貝塚（第二報）」『史前學雜誌』第10巻4号、史前学会、13～15頁。
- 神尾明正 1938b 「広島附近の高位貝塚とその先史環境」『地理學評論』第14巻6号、日本地理学会、77・78頁。
- 河合 忍 2015 「中国・四国」佐藤由紀男編『弥生土器』考古調査ハンドブック12、ニューサイエンス社、160～208頁。
- 川越哲志 1965 「芸備地方最近の発掘調査から」『芸備地方史研究』第59号、芸備地方史研究会、24～30頁。
- 草原孝典編 2006 『川入・中撫川遺跡』岡山市教育委員会。
- 榎木敬太編 2006 『三谷遺跡』広島市文化財団発掘調査報告書第13集、広島市文化財団。
- 後藤信義・井上智博 1991 「池島・福万寺遺跡の連続渦文を有する土器をめぐって」『池島・福万寺遺跡発掘調査概要』大阪文化財センター、146～150頁。
- 近藤義郎 1996 『新本立坂』総社市文化振興財団。
- 近藤義郎 2002 『楯築弥生墳丘墓』吉備考古ライブラリー8、吉備人出版。
- 近藤 玲 2013 「集落内における「祭祀」的行為について—住居と井戸の廃絶事例から探る—」『吉備弥生社会の真実像・吉備弥生時代のマツリ・弥生墓が語る吉備』シンポジウム記録9、考古学研究会、157～174頁。
- 重松辰治 2006 「山陰地方における墳丘墓出土土器の検討」『古代文化研究』第14号、島根県古代文化センター、1～24頁。
- 柴田昌児 2009 「松山平野における弥生社会の展開」『国立歴史民俗博物館研究報告』第149集、国立歴史民俗博物館、197～231頁。
- 島崎 東編 1993 『窪木薬師遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告86、岡山県教育委員会。
- 島崎 東・岡本泰典・時實奈歩編 2003 『津島遺跡』4、岡山県埋蔵文化財発掘調査報告書173、岡山県教育委員会。
- 下澤公明編 1996 『斎富遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告105、岡山県教育委員会。
- 下澤公明編 2001 『下庄遺跡・上東遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告157、岡山県教育委員会。
- 白石 純 2014 「有年牟礼・山田遺跡の位置づけ」『有年牟礼・山田遺跡発掘調査報告書』赤穂市文化財調査報告書78、赤穂市教育委員会、70～83頁。
- 妹尾周三 1987 「位置と環境」『山陽自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』(IV)、広島県埋蔵文化財調査センター調査報告書第55集、広島県埋蔵文化財調査センター、4～14頁。
- 妹尾周三 1990 「広島県太田川下流域の堅穴式石室」『古文化談叢』第23集、九州古文化研究会、35～66頁。

- 高木邦宏編 2009 『坪栗遺跡』西予市埋蔵文化財調査報告書第1集、愛媛県西予市教育委員会。
- 高下洋一 2003 「太田川下流域における約1700年前の地形復元について」『研究連絡誌』Ⅱ、広島市文化財団、28～40頁。
- 田尻義了 2009 「弥生時代巴形銅器の生産と流通—九州大学筑紫地区出土巴形銅器鋳型と香川県森広天神遺跡出土巴形銅器の一致—」『考古学雑誌』第93巻第4号、日本考古学会、1～22頁。
- 辰巳和弘 2008 「水と井戸のまつり」『儀礼と権力』弥生時代の考古学7、同成社、15～31頁。
- 椿 真治編 1993 『みそのお遺跡』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告87、岡山県教育委員会。
- 中村 浩編 1987 『下池田遺跡—第2次発掘調査報告—』大谷女子大学資料館報告書第17冊、大谷女子大学資料館。
- 長井数秋・森 光晴・岸 郁男・矢野 完・西尾幸則 1973 『天神・櫻谷遺跡発掘報告書』松山市文化財報告書Ⅱ、松山市教育委員会・松山市文化財協会。
- 長友朋子 2004 「河内地域と他地域との併行関係」『弥生中期土器の併行関係』第53回埋蔵文化財研究集会発表要旨集、埋蔵文化財研究会第53回研究集会実行委員会、161～180頁。
- 畑 信次 2000 『賀茂倉田遺跡発掘調査報告書』福山市教育委員会・福山市埋蔵文化財発掘調査団。
- 平井典子 2013 「土器の文様と絵画・記号からみた弥生社会（予察）」『弥生時代政治社会構造論』雄山閣、245～258頁。
- 平井典子 2016 「岡山県における弥生時代後期の絵画土器」『古代吉備』第27集、古代吉備研究会、58～77頁。
- 広島県教育委員会 2004 『広島県遺跡地図』Ⅹ、広島県教育委員会。
- 正岡睦夫編 1984 『百間川原尾島遺跡』2、岡山県埋蔵文化財発掘調査報告56、岡山県教育委員会。
- 松岡美緒編 1992 『大久保遺跡発掘調査報告』広島市歴史科学教育事業団調査報告書第7集、広島市歴史科学教育事業団。
- 松崎寿和 1979 「西山貝塚」『広島県史』考古編、広島県、317・318頁。
- 松崎寿和・潮見 浩 1961a 「弥生時代」『新修広島市史』第1巻総説編、広島市役所、125～135頁。
- 松崎寿和・潮見 浩 1961b 「弥生後期の諸遺跡」『新修広島市史』第1巻総説編、広島市役所、180～184頁。
- 松村 淳・梅木謙一編 1993 『和気・堀江の遺跡』松山市埋蔵文化財調査報告書36、松山市教育委員会・松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター。
- 丸山 潔編 1990 『住吉宮町遺跡』神戸市教育委員会。
- 南健太郎編 2016 『吉備の弥生時代』吉備人出版。
- 宮内慎一編 2006 『東石井遺跡・西石井遺跡』松山市文化財調査報告書112、松山市教育委員会・松山市生涯学習振興財団埋蔵文化センター。
- 柳瀬昭彦編 1977 『川入・上東』岡山県埋蔵文化財発掘調査報告16、岡山県教育委員会。
- 山中良平編 2014 『有年牟礼・山田遺跡発掘調査報告書』赤穂市文化財調査報告書78、赤穂市教育委員会。
- 行田裕美・小郷利幸・平岡正宏 1993 『大畑遺跡』津山市埋蔵文化財発掘調査報告第47集、津山市教育委員会。

**A Decorated Pottery Sherd presumably unearthed from the Nishiyama Shell Midden
(Higashi-ku Hiroshima City)**

Hiroataka MAKI

In this essay I'm going to present a pottery sherd which is believed to have been unearthed from the Nishiyama shell midden in Hiroshima city. It has not been yet reported and will be examined concerning its characteristics by comparing it with other similar cases. The sherd belongs to a jar-shaped type of pottery with a narrow neck and a very thin and firm finishing. Regarding the Aki region it has an exceptional design, it is therefore considered to have been imported from other regions. Examples are mainly observed in the coastal areas of the Seto Inland Sea, and many of them are considered to have a lineage that can be traced back to the Kibi region. Due to the fact that in the Aki region Kibi-type pottery artifacts are rarely unearthed, they are considered to be valuable material revealing interregional exchange in the second half of the Late Yayoi period. The Nishiyama shell midden is occupied important position in the bay coast of Hiroshima in terms of the location and quantity of objects, and the material presented here is considered to reinforce such characteristics.

図版第 1



a. 伝西山貝塚出土加飾土器片（外面）



b. 伝西山貝塚出土加飾土器片（内面）